

特集

「長井紬」の技と心を次世代に!

致芳の「宝」!

織元2軒の伝統工芸士に山大生が密着取材

長岡 正幸さん(左)、渡邊 徹さん(右)



ごあいさつ ～確かな歩みの手応えを感じて～

致芳コミュニティセンター館長 横澤 敏

大雪の正月、2021年丑年の幕開けとなりました。新型コロナウイルスの猛威に世界中がさらされてから一年が経過し、ようやく近々中にもワクチン接種が受けられる段階まできました。以前の日常は果たしていつになったら取り戻せるのでしょうか。

さて、令和2年度はコロナ禍の大幅な制限の中で、交流やコミュニティの機会も大幅に失い、事業を中止したり縮小したりせざるを得ませんでした。

しかし、できなかったことばかりでもなく、様々な工夫を凝らしながら実施できたことや、新たに展開できた事業もあります。地元伝統産業である「長井紬」に目を向けた、長井市と山形大学人文社会科学部との連携によるフィールドワークを通じた研究もその1つです。この度、その研究結果としての提案をこの紙面にて紹介させていただきます。地域の皆様にも、地元の貴重な伝統文化に、改めて目を向けてもらえたら幸いです。

また、このたび致芳小学校地域学校協働本部(コミュニティスクール)が令和2年度の文部科学大臣表彰受賞決定という吉報を受けました。「地域学校協働活動」の推進に関わり、地域と一体となった取り組みと活動が認められたものです。地区にとっても大変明るい、うれしいニュースとなりました。致芳コミセンが進めようとしていることの一つでもあり、方向性は間違いのないという確かな手応えを感じることができたように思います。皆様のご理解とご協力に改めて感謝申し上げますとともに、今後ともよろしくご協力をお願い申し上げます。

